１．発見日時	令和６年(2024 年)９月２日（月）11 時 30 分
２．発生海域名	仙鳳趾漁港及び沿岸一帯
３．発生状況 （規模、形状等）	尾幌川河口から仙鳳趾漁港南側まで（直線距離約 5.4km）の一帯の海面が呈色 （図１）
４．優占種	ラフィド藻 フィブロカプサ・ジャポニカ（*Fibrocapsa japonica*） （図２） 2,330 細胞/mL（港外北側）～3,120 細胞/mL（仙鳳趾漁港） プラシノ藻 ピラミモナス（*Pyramimonas*）属 （図３） 5,870 細胞/mL（仙鳳趾漁港）
５．その他	今回の赤潮生物の細胞密度が 1mL あたり数千細胞と低いことと、8/31 に 60 mm の日積算降水量（厚岸町太田アメダス）を記録していることから、今回の海面着色は、河川水流出に起因する濁りと赤潮生物による着色が複合的に関与したものと推測されている。 漁港内ではピラミモナス属が細胞密度において卓越したが、細胞が小型であるため、海面着色への寄与は小さいと推測されている。

６．参考図

図１　発見海域

地理院地図（国土地理院）https://maps.gsi.go.jp/を基に道作成

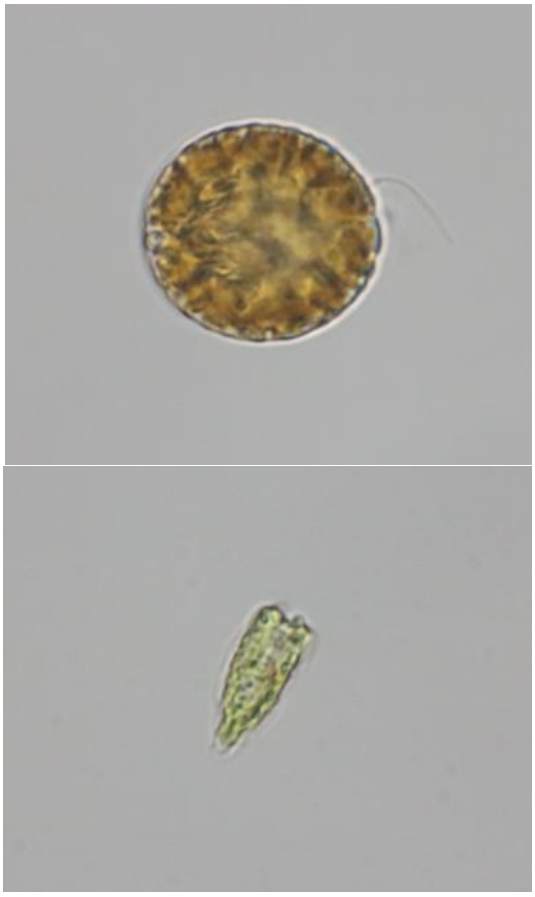

図２　*Fibrocapsa japonica*（上）

図３　*Pyramimonas* sp.（下）